

豊橋からSDGsで世界と未来につなぐ水と緑の地域づくり

愛知県豊橋市（2019年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

愛知県東部に位置し、人口約37万人規模の中核中核都市。山や海、湿原や干潟などの自然に囲まれる一方で、新幹線をはじめとする3社6路線が集まる豊橋駅に、東三河の玄関口として多くの人が行き交う都会と田舎が共存するまちである。農業・工業・商業のバランスがとれた産業構造を有している。
経済面では「水と緑に係る経済活動の活性化」、社会面では「水と緑を守る人材の育成」、環境面では「水と緑の環境保全」が課題となっており、解決に向けた取組を行っている。

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

豊川水系でつながる東三河地域の水環境及び森林環境が持続可能な活動や教育等により保全されており、「現在から未来へ」「豊橋・東三河から世界（開発途上国）へ」水道技術が継承され、安全・安心な水が安定的に供給されていることを目指す将来像としている。具体的には、豊川水系の恵みが受け継がれること、環境保全意識が高く国際感覚に優れていること、開発途上国の水環境改善に寄与すること、グローバル経験が活かされた水道技術力の高い地域になることを目指す。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

- ◆ 地域や開発途上国での様々な協力活動の推進
 - ・インドネシア国ソロク市での上下水道給水サービス強化プロジェクト。
 - ・ボルネオ島の野生動物保全のための国際協力活動。
- ◆ 環境美化活動をはじめとしたSDGs達成に向けた取組の促進
 - ・530運動発祥の地として、企業との連携により環境保全活動や環境美化活動を展開。
 - ・豊橋市SDGs推進パートナー制度を起点とした、交流会やイベント、次世代を担う若者のSDGsを推進するための行動を称える「豊橋市高校生・大学生SDGsアクション」等の取組を実施。
- ◆ 地域資源の利活用による再生可能エネルギーの生産
 - ・下水汚泥や生ごみ等を活用して発生したバイオガスで発電を行い、再生可能エネルギーを生産。
 - ・地域木材等の有効活用による再生可能エネルギーの生産を図るとともに、施設の稼働に伴い新たな雇用を創出。

5. 取組推進の工夫

- ・NPO等の団体、教育機関、企業、自治体等の専門性を有したステークホルダーとの連携のもと、庁内外のパートナーシップを活かした取組の推進を行っている。

6. 取組成果

- ◆ 地域や開発途上国での様々な協力活動の推進
 - ・インドネシア共和国ソロク市（浄水技術・排水技術指導）、東三河地域の市町村への水道技術支援。
 - ・マレーシアボルネオ島の自然環境保護・生物多様性保全事業の推進。
- ◆ 環境美化活動をはじめとしたSDGs達成に向けた取組の促進
 - ・美化活動（530運動実践活動）に145,300人参加。
 - ・豊橋市SDGs推進パートナー制度には令和6年3月末時点で633企業・団体が登録。交流会を2回開催
 - ・豊橋市高校生・大学生SDGsアクションには223件の応募があり、23件がSDGs推進パートナー特別賞を受賞。
 - ・出前講座は23回開催。
- ◆ 地域資源の利活用による再生可能エネルギーの生産
 - ・令和5年度のバイオガスエネルギー利用率100%。

7. 今後の展開策

さらなるSDGsの推進を図るため、市、企業、団体、及び市民が一丸となって、ともに目指すゴールや豊橋市の地域課題の解決に向けて連携し、持続可能な取組や活動を実施する。

8. 他地域への展開状況（普及効果）

バイオマス利活用センター、下水道施設への国内外からの視察受入を多数実施。